

新型コロナウイルス感染症中小・小規模企業緊急総合支援事業 取組事例報告書

事業者情報	よみがな	ぶらんしかいいんおびひろ	所在エリア	道東・十勝
	事業者名	プラン歯科医院帯広		
	業種	歯科医業	従業員規模	10名
	事業概要	本事業者は、開業20年目の歯科医院である。通常の歯科医療のみならず、歯の審美性や機能性を重視した施術を提供している他、インプラント技術について、黎明期より積極的な研究と取り組みを続け、長年の経験とノウハウにより、管内随一の技術力を誇っている。		
	活用施策	ものづくり補助金		
支援期間	2021年7月14日～2022年1月26日		担当専門家	西部 一晃

取組事例	他科医院との連携による新たな歯科医療サービスの開発	
取組概要	<p>新型コロナウイルス感染症により減少傾向の来院者数を回復させる事を目的として、新たに他科医院（医業）との連携による、新たな歯科医療サービス（医科歯科連携医療サービス）を開発する取り組みである。特に、糖尿病専門医との連携による、糖尿病の予防・治療を目的とした連携体制を構築すると共に、同歯科医院の生産性向上などを企画した。</p>	
■写真・イラスト等		
<p style="text-align: center;">《ビジネスモデル図》</p>		<p style="text-align: center;">《感染防止を目的とした導入予定機》</p>

■取組の経緯・背景	
<p>同歯科医院は、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、来院者数が減少していた。特に歯科医院は、ウイルスの滞留する口内を扱う業種であることから、感染リスクの高い場所であるという風評が強く、対策に苦慮していた所である。同歯科医院は、感染リスクの抑制を徹底し、来院者数を回復させる事を望んでいたが、その際、歯科医療サービスの拡充と生産性の向上を同時に図る事によって、同歯科医院の経営を抜本的に立て直す方法を模索していた。同歯科医院の院長は、メインバンクである地元信用金庫の担当者にこのプランについて相談し、ものづくり補助金を活用する事を提案され、計画策定の支援について、専門家派遣を利用する事となった。</p>	

■取組内容（特徴・工夫・進捗など）

①医科歯科連携の高度な体制構築

同事業者は、歯科医院には珍しく看護師資格を有する従業員を雇用していた。この看護師は、元は自衛隊の医療施設に勤務しており、当時から医科と歯科との連携に携わっていた。そこで、同看護師の経験を活かし、医科と歯科とのつなぎ役を任せ、医科歯科連携の体制構築を行った。医科と歯科の間では、多くの制度上の壁、技術上の壁が存在している為、スムーズな情報連携を行う為に、看護師による専門的な連携対応に加え、デジタルデータ（画像・映像等）の共有を図る事によって、その差を埋めるシステム構築を工夫した。システムを構築する上で必要となる機材の導入に際し、ものづくり補助金の制度を活用する事とした。

②ものづくり補助金の申請

同事業者が計画した新たな歯科医療サービスの需要について、市場データから分析を行い、商圏内の需要量の試算を行った。また、計画の策定に際し、計画全体のビジュアルイメージを作成し、どのような取り組みで、どのようなメリットが生まれるのかを分かりやすく表現するようアドバイスを行った。同計画は無事採択され、事業実施の段階に入った。機材の導入は凡そ4月～5月頃である。機材の導入に先駆け、連携先の糖尿病専門医との間で連携体制の打ち合わせが行われ、試験的な連携治療が開始された段階である。

③感染リスクの徹底した抑制

この取り組みによって導入する新たな機材は、新型コロナウイルス等の感染症の感染リスクを大幅に下げるものを選択した。ネクストビジョンは、患者の口内を覗き込まなくて済む他、歯形の採取に用いるスキャナは、口内接触が殆ど無い他、接触する可能性のある部分を取り外して消毒する事ができるものを選択した。また、作業効率を高める機材である為、患者との接触時間を大幅に短縮する事が可能となり、感染リスクの抑制を大幅に強化する事が可能となった。

■今後に向けて

2022年4月～5月を目安に新たな機材が導入され、医科歯科連携の新たな歯科医療サービスが本格的に始まる予定である。初期は、糖尿病患者及び糖尿病予備軍を対象とした連携サービスの運用が主体となるが、経験を蓄積した後は皮膚科や整形外科との連携にも発展させる予定である。また、医科歯科連携による治療の重要性について、積極的なPRを行う為、歯科医協会や薬局などとも協力し、啓発活動を強化する予定である。

■支援の流れ

2021年7月 支援開始。業況、及び計画内容のヒアリング。計画策定に対する助言。
2021年8月 進捗の確認。計画書の確認とブラッシュアップ。計画進行についての助言。
2021年10月 ものづくり補助金不採択。計画内容の見直し。計画のビジュアルイメージの提案。
2021年11月 進捗確認。計画書のブラッシュアップ。市場分析とターゲット層の選定。需要予測。
2022年1月 ものづくり補助金採択。今後のアクションプランの確認、助言。